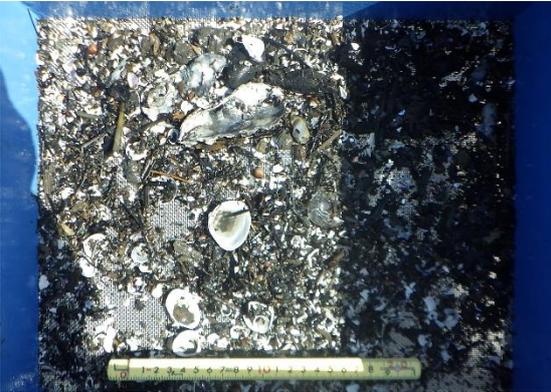


令和5年度 東京都内湾水生生物調査 5 月底生生物調査速報

東京都内湾水生生物調査

地点名	多摩川河口干潟	調査年月日	令和5年5月18日	8:47~9:35																
<調査地点>		<底質状況、底生生物出現状況> ※写真のスケール1目盛:1mm																		
		 <p>多摩川左岸側（東京都側）の海老取川河口付近の干潟で調査を行った。</p>																		
<table border="1" style="margin-top: 10px;"> <caption>水深別の水質データ</caption> <thead> <tr> <th>水深 (m)</th> <th>水温 (°C)</th> <th>塩分</th> <th>酸素量 (mg/L)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.0</td> <td>10.0</td> <td>10.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>1.0</td> <td>10.0</td> <td>10.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>2.0</td> <td>10.0</td> <td>10.0</td> <td>1.0</td> </tr> </tbody> </table>		水深 (m)	水温 (°C)	塩分	酸素量 (mg/L)	0.0	10.0	10.0	1.0	1.0	10.0	10.0	1.0	2.0	10.0	10.0	1.0	 <p>貝殻片や植物片などの夾雑物が交じる。</p>		
水深 (m)	水温 (°C)	塩分	酸素量 (mg/L)																	
0.0	10.0	10.0	1.0																	
1.0	10.0	10.0	1.0																	
2.0	10.0	10.0	1.0																	
<p>底質の状況</p>  <p>底質は砂の混じった固めの泥であった。</p>		<p>採泥状況</p>  <p>干潟に降り、小型の採泥器を用いて底泥を採取する。</p>																		
<p>ムロミスナウミナナフシ</p>  <p>体長 2cm 程になる、フナムシに近い仲間。細長い円筒状の体をしており、白地に褐色の斑紋がある。干潟の表層部に巣穴を掘って生活する。</p>		<p>ヤマトシジミ</p>  <p>殻長 4cm 程度になる。汽水域の砂底から泥底に生息するが、河口域にいるものは出水等の影響を受けやすい。</p>																		
<p>ソトオリガイ</p>  <p>殻長 5cm 程になる。淡水の影響の強い干潟の砂底から砂泥底にやや深く潜って生活する。殻は白色や半透明で非常に薄く、壊れやすい。</p>		<p>ヤマトオサガニ</p>  <p>干潟でよくみられるカニ。甲幅 4cm 程度になり、柔らかく水分の多い泥干潟に斜めの穴を掘って巣穴を作る。巣穴の入り口には放射状の浅い溝ができる。</p>																		

令和5年度 東京都内湾水生生物調査 5 月底生生物調査速報

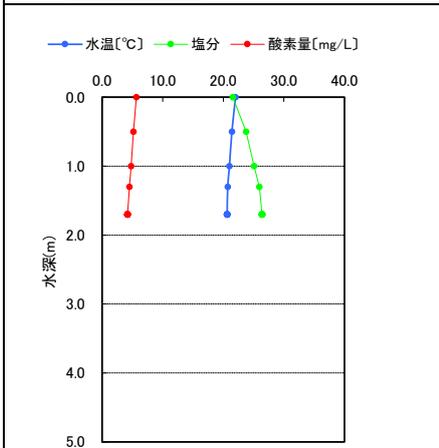
東京都内湾水生生物調査

地点名 森ヶ崎の鼻 調査年月日 令和5年5月18日 9:49~10:42

<調査地点> <底質状況、底生生物出現状況> ※写真のスケール 1 目盛:1mm



羽田空港の北側に残された干潟。干潮時でも周りには「海」に取り囲まれているため、岸から歩いて入ることはできない。



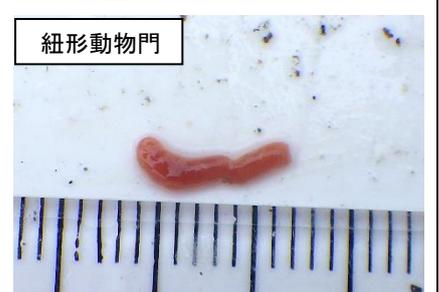
ふるい上には貝殻片が多数残った。



底質は砂の混じった固めの泥であった。



採取した水の臭気を確認する。本地点では水と底泥のどちらも無臭であった。



「ヒモムシ」と称される動物群。文字通り紐状で、とてもちぎれやすい。肉食性で、生きた多毛類などを体内に収納している吻を伸ばして捕食する。



砂泥干潟や浅瀬の海底に潜り、水引に見立てられる細い糸のような鰓と触手を水中に伸ばしていることが多い。(本個体は切れてしまっている。)かなり汚れた環境でも生息している。



成長すると殻長 10cm を超える外来種。貧酸素環境に耐性を持ち、現在では東京湾を代表する二枚貝となっている。貧酸素環境では硫化物により殻が黒ずむ。



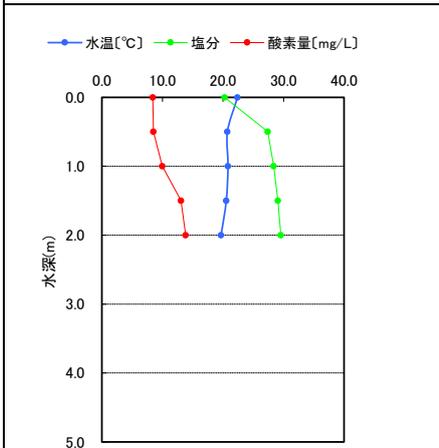
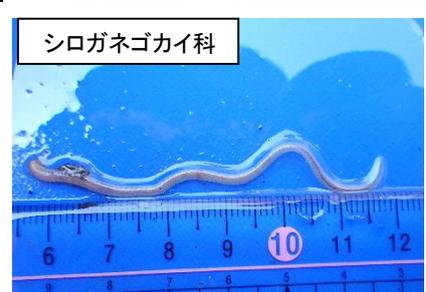
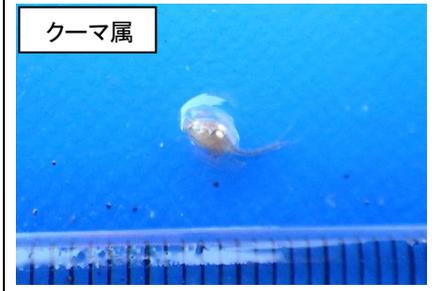
調査地点付近で貝の死殻を発見した。生物にとってはこういった貝殻も格好の棲み処となる。この貝殻には緑藻類や外来種のアメリカフジツボ等が付着していた。

【調査対象外】

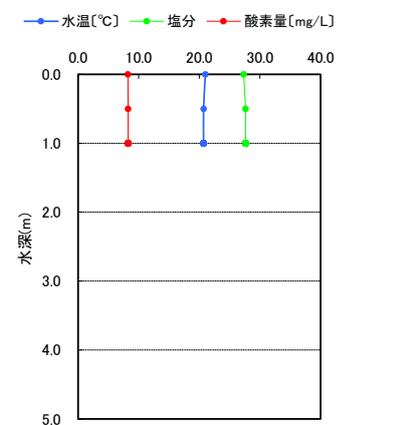
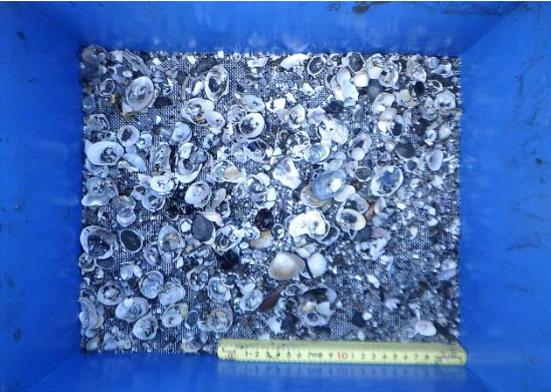
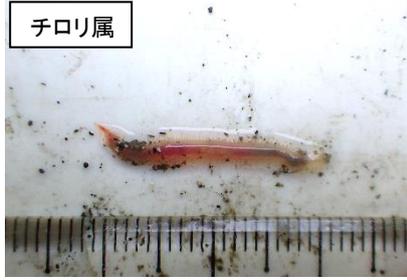
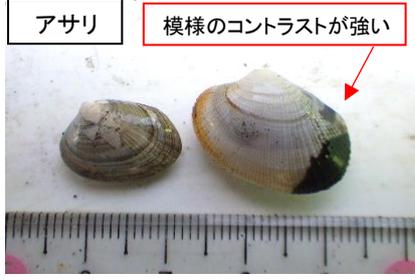
東京都内湾水生生物調査

<p>地点名 St.6</p>	<p>調査年月日 令和5年5月18日</p>	<p>11:02~11:51</p>																																
<p><調査地点></p>	<p><底質状況、底生生物出現状況> ※写真のスケール1目盛:1mm</p>																																	
		<p>東京港フェリーターミナルの正面で船上から採泥を行った。航路であるため、水深は11.8mと深い。水底付近は貧酸素の傾向にあった(貧酸素状態:2.0mg/L以下)。</p>																																
<table border="1"> <caption>水質データ (推定値)</caption> <thead> <tr> <th>水深(m)</th> <th>水温(°C)</th> <th>塩分</th> <th>酸素量(mg/L)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>0.0</td><td>20.0</td><td>32.0</td><td>2.0</td></tr> <tr><td>2.0</td><td>20.0</td><td>32.0</td><td>2.0</td></tr> <tr><td>4.0</td><td>20.0</td><td>32.0</td><td>2.0</td></tr> <tr><td>6.0</td><td>20.0</td><td>32.0</td><td>2.0</td></tr> <tr><td>8.0</td><td>20.0</td><td>32.0</td><td>2.0</td></tr> <tr><td>10.0</td><td>20.0</td><td>32.0</td><td>2.0</td></tr> <tr><td>11.8</td><td>20.0</td><td>32.0</td><td>2.0</td></tr> </tbody> </table>	水深(m)	水温(°C)	塩分	酸素量(mg/L)	0.0	20.0	32.0	2.0	2.0	20.0	32.0	2.0	4.0	20.0	32.0	2.0	6.0	20.0	32.0	2.0	8.0	20.0	32.0	2.0	10.0	20.0	32.0	2.0	11.8	20.0	32.0	2.0		<p>ふるい上には貝殻片が残った。</p>
水深(m)	水温(°C)	塩分	酸素量(mg/L)																															
0.0	20.0	32.0	2.0																															
2.0	20.0	32.0	2.0																															
4.0	20.0	32.0	2.0																															
6.0	20.0	32.0	2.0																															
8.0	20.0	32.0	2.0																															
10.0	20.0	32.0	2.0																															
11.8	20.0	32.0	2.0																															
<p>底質の状況</p> 	<p>チヨノハナガイ</p> 	<p>シズクガイ</p> 																																
<p>底質の性状はシルトで、クリーム状でとても柔らかく、若干の硫化水素臭(腐卵臭)があった。</p>	<p>内湾の泥底に生息する。殻は非常に薄いため、もろく壊れやすい。シズクガイと同所的に出現することが多い。</p>	<p>半透明の薄く壊れやすい殻を持つ小型の二枚貝。貧酸素耐性があり、無酸素状態でも水温25°Cであれば1日間生存できる。有機汚濁の指標種の一つとされている。</p>																																
<p>クシノハクモヒトデ</p> 	<p>ユビナガスジエビ</p>  <p>抱卵中</p>	<p>マメウラシマ</p> 																																
<p>名前にヒトデとつく棘皮動物であるが、いわゆる星形をしたヒトデ(海星綱)とは違う蛇尾綱の仲間。砂泥底に生息し、クモのような動き方をする。他の底生動物の餌となる。</p>	<p>内湾や河口域に多くみられるテナガエビの仲間。他のスジエビ属に比べスジ模様が不明瞭で、体表に細かい斑点模様がある。本地点で甲殻類が採集されることはまれ。</p>	<p>水深5m以深の泥底に生息する小型の巻貝。厚く光沢のある殻を持つ。昨年8月の調査では死殻が確認されていた。</p>																																

東京都内湾水生生物調査

<p>地点名 三枚洲(荒川河口)</p>	<p>調査年月日 令和5年5月18日</p>	<p>12:13~12:57</p>																												
<p><調査地点></p>	<p><底質状況、底生生物出現状況> ※写真のスケール1目盛:1mm</p>																													
		<p>荒川と旧江戸川の河口に残された天然の浅場。すぐ横は東京ディズニーリゾートである。水深が2.3mと深いので、船上から採泥した。</p> 																												
 <table border="1"> <caption>水深(m) vs 水温(°C) / 塩分 / 酸素量(mg/L)</caption> <thead> <tr> <th>水深(m)</th> <th>水温(°C)</th> <th>塩分</th> <th>酸素量(mg/L)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.0</td> <td>10.0</td> <td>20.0</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td>1.0</td> <td>10.0</td> <td>20.0</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td>2.0</td> <td>10.0</td> <td>20.0</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td>3.0</td> <td>20.0</td> <td>30.0</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td>4.0</td> <td>20.0</td> <td>30.0</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td>5.0</td> <td>20.0</td> <td>30.0</td> <td>2.0</td> </tr> </tbody> </table>	水深(m)	水温(°C)	塩分	酸素量(mg/L)	0.0	10.0	20.0	2.0	1.0	10.0	20.0	2.0	2.0	10.0	20.0	2.0	3.0	20.0	30.0	2.0	4.0	20.0	30.0	2.0	5.0	20.0	30.0	2.0		<p>ふるい上には貝殻片が少量残った。</p>
水深(m)	水温(°C)	塩分	酸素量(mg/L)																											
0.0	10.0	20.0	2.0																											
1.0	10.0	20.0	2.0																											
2.0	10.0	20.0	2.0																											
3.0	20.0	30.0	2.0																											
4.0	20.0	30.0	2.0																											
5.0	20.0	30.0	2.0																											
<p>底質の状況</p> 	<p>シロナゴカイ科</p> 	<p>多毛類</p> 																												
<p>底質は細砂であった。本地点では令和元年度の台風による出水で植物片の混じったシルトが堆積していたが、昨年からは夾雑物の少ない細砂となっており、3年ほどかけて台風前の性状へと回復したと考えられる。</p>	<p>砂底あるいは砂泥底に生息する。左右の足を波動運動させることで泳ぎ、活発に運動することができる。体は一般的に乳白色である。</p>	<p>日本では800種類以上が知られ、生活様式も食性も多様な生物。また、多毛類はたくさんの生物の餌となっている。肉眼での識別が難しいため、多毛類(多毛綱)とした。</p>																												
<p>クーマ属</p> 	<p>サクラガイ</p> 	<p>ウミグモ綱</p> 																												
<p>小型の甲殻類で、体長は3~8mm程である。太くて短い頭胸部と細長い筒状の腹部からなる。日中は砂泥中に潜り、夜に海面付近に浮上して餌を採る。</p>	<p>殻は桃色で、大型になると白桃色になる場合もある。殻の膨らみは非常に弱く、扁平。内湾の干潟線から30mの砂泥底に分布する。干潟周辺では保全されたアマモ場の泥底に多い。</p>	<p>クモに似た姿の節足動物。本種の仲間には二枚貝に寄生する種が知られているが、成熟すると自由生活を送る。抱卵した個体も採集された。前週の稚魚調査でも、本地点に近い葛西人工渚で採集されている。</p>																												

東京都内湾水生生物調査

地点名	St.31(多摩川河口)	調査年月日	令和5年5月18日	13:38~14:25								
<調査地点>		<底質状況、底生生物出現状況> ※写真のスケール1目盛:1mm										
		 <p style="font-size: small;">多摩川河口から1.5km付近の浅場で調査を行った。水深が1.1mと深く、船上から採泥した。</p>										
 <p style="font-size: x-small;">● 水温(°C) ● 塩分 ● 酸素量(mg/L)</p> <table border="1" style="font-size: x-small; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th>水深(m)</th> <th>水温(°C)</th> <th>塩分</th> <th>酸素量(mg/L)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.0</td> <td>~20.0</td> <td>~28.0</td> <td>~10.0</td> </tr> </tbody> </table>		水深(m)	水温(°C)	塩分	酸素量(mg/L)	1.0	~20.0	~28.0	~10.0	 <p style="font-size: small;">ふるいには貝殻片が多数残った。</p>		
水深(m)	水温(°C)	塩分	酸素量(mg/L)									
1.0	~20.0	~28.0	~10.0									
<p>底質の状況</p>  <p>底質はシルト混じりの砂であった。</p>		<p>イトゴカイ科</p>  <p>有機物の多い底質を好む多毛類。有機物を分解し、海底を浄化する。イトゴカイ科の仲間は疣足(いぼあし)が発達せず、剛毛も小さいなど特徴に乏しいため種の同定が難しい。</p>	<p>アラムシロ</p>  <p>殻高 15mm 程になる。殻の表面には粗い粒状突起が並ぶ。干潟から水深 3m の砂泥底に生息する。魚や貝の死骸を食べる性質があり、「海の掃除屋」と呼ばれている。</p>									
<p>チロリ属</p>  <p>体長 10cm 程になる。4つの鋭い牙(顎)がついた吻(ふん)を『ちろり』と出して、干潟の小動物を捕らえる。写真の個体の物は、体内にしまい込まれている。</p>	<p>アサリ</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block; font-size: x-small;">模様のコントラストが強い</div>  <p>三枚洲や多摩川河口域周辺は、アサリの生息場所となっており、東京湾における幼生の供給源となっている(粕谷 2005)*。東京湾のアサリははっきりとした模様が多い。</p>	<p>タカノケフサイソガニ</p>  <p>甲幅 3~4cm 程になる。日本全国に分布し、河口の転石の下やカキ殻の中、護岸の隙間などに生息する。成体のオスのハサミの付け根に、毛の房がある。</p>										

※ 粕谷智之, 2005 :東京湾におけるアサリ浮遊幼生の動態. 水産総合研究センター研究報告.別冊, 3:51-58